

第3章 草津市の歴史文化の調査と活用

1 草津市歴史文化基本構想策定にあたっての調査・検討の進め方

(1) 調査・検討の進め方

草津市の歴史的背景について悉皆的に記述することを目的とした草津市史編纂事業は、昭和56年(1981)の「草津市史第1巻」の刊行にはじまり、平成9年(1997)の草津市史資料集6「芦浦観音寺」刊行にて完了している。草津市史編纂事業に伴う基礎資料調査として、古文書などを中心とした調査が実施されている。また、昭和53年度以降、本市では埋蔵文化財発掘調査ならびに未指定文化財調査が実施されており、その調査結果は各種調査報告書などで報告されている。

草津市歴史文化基本構想の策定にあたっては、草津市史編纂事業に伴う調査成果や各種調査成果、博物館類似施設である草津宿街道交流館の所蔵目録、指定文化財目録、寄託・購入などによる草津市所蔵文化財目録などを基に「草津市歴史文化基本構想策定用データベース」を作成し、市域の歴史文化の特性把握を行うものとする。

また、歴史文化に関する意向調査のため、市民説明会やワークショップを開催することで市民の方々と意見交換を行い、その結果を構想策定に反映させるものとする。

(2) 策定委員会の体制

草津市歴史文化基本構想の内容を検討するにあたって、学識者や市民、ならびに関連団体などから構成される「草津市歴史文化基本構想策定委員会」を設置し、専門の見地および市民の視点から意見を取り入れるものとする。

表3-1 草津市歴史文化基本構想策定委員会委員

	委員資格	委員氏名	経験等	備考(分野等)
1	学識経験を有する者	金田 章裕	京都大学名誉教授	景観・歴史地理学
2		岩崎 奈緒子	京都大学総合博物館館長	歴史学
3		富島 義幸	京都大学准教授	建築学
4		中井 均	滋賀県立大学教授	考古学・史跡整備
5		高梨 純次	元滋賀県立近代美術館学芸課長	美術工芸
6	公募市民	片山 恵泉	—	市民代表
7		麻植 美弥子	—	市民代表
8	その他教育委員会が必要と認める者	岸本 修一	草津市まちづくり協議会(老上西学区)	まちづくり

2 草津市の歴史文化を活かしたまちづくりの考え方

本市ではこれまで、史跡整備や各文化財案内板の設置、各種普及啓発活動、埋蔵文化財発掘調査、ならびに指定文化財の管理など、市域の文化財を保存・継承するための取組を進めてきた。しかし、未指定文化財などについては、支援が必ずしも十分とはいえない状況にある。

歴史文化は地域の財産であり、町の魅力となりうる資産である。歴史文化を後世に伝えるために保存を図るとともに、資産として活用し、より一層魅力的な草津らしいまちづくりをいかに展開していくか、検討していく必要がある。

そこで、歴史文化基本構想を活かしたまちづくりの考え方として、次の基本理念を定める。

草津市歴史文化基本構想を活かしたまちづくりの基本理念	
1	草津市に受け継がれてきた歴史文化を後世に守り伝える。
2	草津市の歴史文化を活用し、草津らしいまちづくりを推進する。
3	市民と行政が協働し、地域の活性化および魅力の再認識を図る。